

岡山市SDGs未来都市計画
(2021～2023)

岡山県岡山市

< 目次 >

1 将来ビジョン	
(1) 地域の実態.....	2
(2) 2030年のあるべき姿.....	7
(3) 2030年のあるべき姿の実現に向けた優先的なゴール、ターゲット.....	9
2 自治体SDGsの推進に資する取組	
(1) 自治体SDGsの推進に資する取組.....	12
(2) 情報発信.....	18
(3) 普及展開性.....	19
3 推進体制	
(1) 各種計画への反映.....	20
(2) 行政体内部の執行体制.....	21
(3) ステークホルダーとの連携.....	22
(4) 自律的好循環の形成.....	25
4 地方創生・地域活性化への貢献.....	26

1 将来ビジョン

(1) 地域の実態

① 地域特性

岡山市は、中国・四国地方のクロスポイントに位置し、広域高速道路網、鉄道網、航空網等、全国的にも優れた交通の広域拠点性を有する都市である。また、商業・業務、医療・福祉、教育・文化、コンベンション等の高次の都市機能が集積するとともに、市内には岡山大学をはじめ13の大学・短期大学に、約3万人の学生が集う、学術・研究の拠点都市にもなっている。

面積は約790km²と広大な市域を有し、自然環境は多様性に溢れ、北部の吉備高原とそれに連なる緑濃い山並や棚田の原風景、市街地周辺の操山・龍ノ口山、南部の干拓により生まれた広大な田園地帯、市域を貫流し瀬戸内海に注ぐ旭川・吉井川など、豊かな水と緑を感じながら、潤いのある暮らしを楽しむことができる。

このように、岡山市は市域の中に、都心、市街地、田園、沿岸部、中山間地域など多様性に富んだ地域を有する、自然環境と質の高い都市機能のどちらも享受できる「住みやすさ」が魅力の都市である。

【産業の特色】

岡山市の産業別の事業所数は、「卸売業、小売業」が約3割を占め、「宿泊業、飲食サービス業」や「医療、福祉」の割合が比較的高く、第3次産業の比重が高い構造となっている。また、産業別の就業者数は、「卸売業、小売業」、「医療、福祉」、「製造業」、「宿泊、飲食サービス」の順に多く、これらの産業が岡山市の雇用を支えている。

【農業資源】

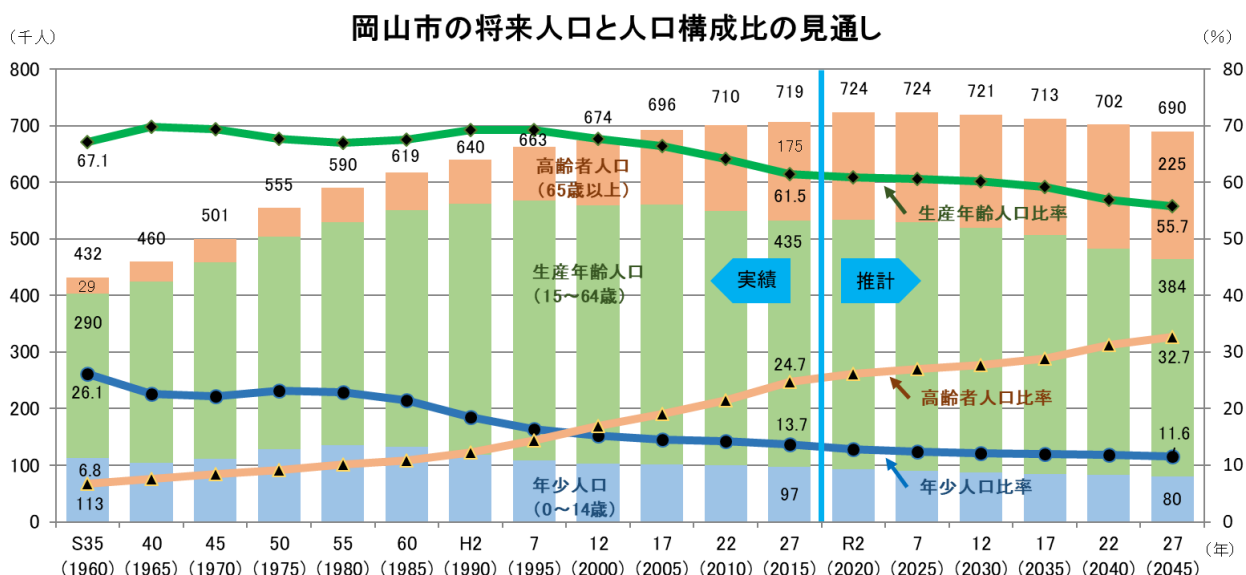
岡山市では、多様な地形、充実した農業用施設、災害が少ない恵まれた気候風土のもとで、果樹、穀物、野菜等の多彩な農作物が多様な農業主体によって生産されており、総農家戸数が全国第5位（2015年）であるなど、全国有数の農業都市である。また、白桃やマスカット、ピオーネ等の果物は、市場から高い評価を得ており、都市ブランドの一つになっている。

【人口動態】

岡山市においても少子高齢化が進んでおり、2019年には自然減が社会増を上回り、人口減少局面を迎えている。（岡山県毎月流動人口調査結果）

また、岡山市の総人口は、2045年には69万人が予測され、2015年の71万9千人より約2万9千人減少する見通しである。その間、生産年齢人口比率と年少

人口比率は低下し続ける一方、高齢者人口比率は上昇を続け、2015年の約17万5千人から、2030年には約20万人となり、高齢化率は24.7%から27.8%まで上昇し、2045年には、32.7%となる見通しである。



(注)人口等は現在市域。人口総数には年齢「不詳」を含む。ただし、人口比率は年齢「不詳」を除いて算出。
 (資料)総務省「国勢調査」(実績値)、岡山市推計結果(推計値)

【医療・福祉資源】

岡山市の医療資源及び介護資源は、人口10万人当たりの医師数2位、病院数で4位、高齢者人口1万人当たりのデイサービス事業所数は2位、通所リハビリ事業所数は2位など、政令指定都市の中でも充実した資源を有している。

また、厚生労働省「平成27年度都道府県別生命表」によれば、岡山県における女性の平均寿命は日本でもトップクラスで、(87.67歳)これは、岡山市内に400床以上の急性期病院を6施設も有していることも要因の一つである。

【まちづくり】

岡山市内では、都心を中心に市街地が放射状に広がる都市構造に合わせて、道路、鉄道、バス等の交通体系も、都心から各地域の拠点に向けて放射状に発達している。また、市街地の拡大にあわせ、外縁部や幹線道路の沿道でも市街化が進行し、低密度な市街地が広がっている。

【自然環境】

岡山市は人口70万を擁する大都市でありながら、市域の約7割を農地や里山が占め、岡山駅近くの用水路にホタル、都心部近郊の市街地に絶滅危惧種のアユモドキが生息するなど、多様で豊かな自然環境に恵まれている。

【地域活動を支えるESDの取組】

岡山市では、市民の身近な環境づくり活動の広がりをベースに、2005年から、持続可能な社会の担い手づくりを進めるESD（Education for Sustainable Development：持続可能な開発のための教育）の取組を開始した。2014年には、「ESDに関するユネスコ世界会議」を岡山市で開催し、公民館を拠点に地域が連携する「ESD岡山モデル」を世界に発信するなど、地域でESD活動の輪が広がっている。

② 今後取り組む課題

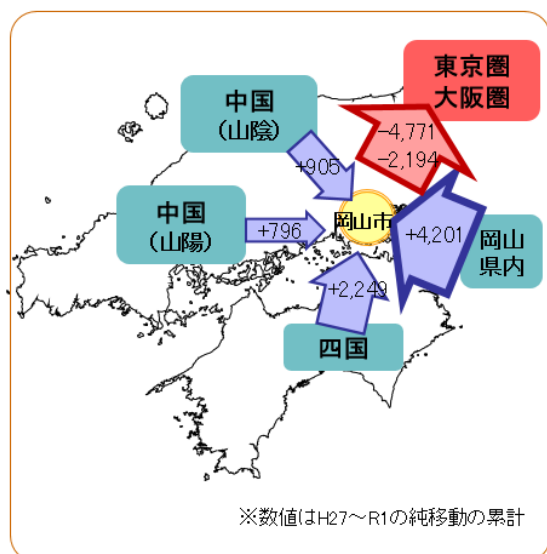
新型コロナウイルス感染症の影響など、社会の状況が大きく変化する中で、経済・社会・環境の分野をはじめ、SDGsの達成に向けたまちづくりへの様々な課題に対応するとともに、岡山市らしさを発揮しながら、まちの活力を創出し、更なる岡山市の発展を実現していく必要がある。

<経済>

岡山市では、若年層をはじめとする生産年齢人口の東京圏への転出超過が拡大してきたことから、人口流出に歯止めをかけ、若い世代の岡山への定着を図るためにも、地域経済を活性化し、新たな雇用と活力を生み出す戦略的な産業振興が必要となっている。

また、生産年齢人口の減少に伴う、労働力や地域活動の担い手不足による地域経済の活力低下や地域コミュニティの機能低下をはじめ、高齢化による農業の担い手不足解消に向けた取組なども重要な課題となっている。

また、新型コロナウイルス感染症の拡大は、地域に深刻な影響を与えており、縮小した経済の回復をはじめ、新たなビジネス展開の模索、テレワーク等の多様な働き方への支援など、感染防止対策を講じながらも、過度に恐れず、社会経済活動を進めていく必要がある。



岡山市の人口移動の構図

(資料：岡山県「岡山県の人口の動き－岡山県毎月流動人口調査」)

＜社会＞

岡山市民の平均寿命は、男女ともに全国水準を上回っている一方、心身ともに自立し日常生活が制限されることなく生活できる期間である健康寿命は、男性は71.6歳、女性は74.3歳（いずれも2016年）で、全国水準を下回っている。このため、運動、栄養・食生活の改善、社会参加等の活動を総合的に進め、地域・職場等、社会全体で健康づくりを支援するとともに、市民一人ひとりが健康づくりに主体的に取り組める環境整備を進めることにより、健康寿命の延伸を図っていく必要がある。

また、高齢化率は上昇することが見込まれており、その中でも75歳以上の後期高齢者は、2015年の約8万5千人から、団塊の世代が75歳以上となる2025年には約11万6千人へと大幅に増加し、医療や介護需要のさらなる増加や、これに伴う保険給付費の増大、保険料の上昇等が見込まれている。

一方、社会の様々な場において、固定的な性別役割分担意識は依然として根強く残っており、女性の正規雇用率は20歳代後半でピークを迎えた後低下する、いわゆる「L字カーブ」の解消が課題となっている。

また、管理職に占める女性の割合は依然として低いため、企業に対して、働き方改革や職場の意識改革などの働きかけが重要となっている。

今後は、意欲ある高齢者の社会参加等を積極的に推進していくとともに、女性活躍の促進に向けた取組を一層進めていく必要がある。

＜環境＞

温暖化による気候変動など、地球規模での環境問題は、地方自治体にとっても重要な課題であり、岡山市では、2020年7月に「世界首長誓約／日本」に署名した。引き続き市民、事業者と連携しながら、持続可能なエネルギーの推進、温室効果ガス排出量の削減や、温暖化の影響を回避・軽減する「適応策」等に一層取り組む必要がある。

また、岡山市では、「岡山市一般廃棄物（ごみ）処理基本計画」に基づき廃棄物の減量化・資源化を進めているが、ごみ排出総量は微増傾向にある。家庭系ごみの排出量は減少する一方、事業系ごみの排出量は増加し続けており、ごみ排出総量の増加の原因となっている。このため、市民、事業者と一体となって廃棄物の減量化・資源化を継続して推進することにより、循環型社会を構築していく必要がある。

一方、自然環境についても、社会活動の変化等により一部の地域で失われつつあるため、生物多様性の重要性に関する地域全体の理解を高め、市民や事業者、行政が互いに取り組むべき課題・目標を共有し連携を強化することが求められている。

更に、岡山市では低密度な市街地が拡大していることにより、過度な自動車依存が進み、バスをはじめとする公共交通の衰退や温室効果ガスの排出等による地球環境問題など、様々な問題が生じている。そのため、公共交通を中心とした利便性の高い交通ネットワークを構築していく必要がある。

(2) 2030年のあるべき姿

岡山市は2018年のSDGs未来都市選定を契機に、「誰もが健康で学び合い、生涯活躍するまち」の実現を目指し、市民の健康づくりの取組を中心に3年間事業を実施してきた。そこで、持続可能なまちの実現に向けた次のステップとして、健康になった市民が社会で活躍できる環境が整備され、誰もが充実した市民生活を送りながら、将来にわたって住み続けたいと思えるまちの実現を目指し、経済・社会・環境の面で「住みやすさ」に磨きをかけ、持続的に発展できる、活力と躍動感を創出するまちづくりに取り組む。

また、新型コロナウイルス感染症の拡大など、社会的に大きな影響を与える事象の発生に対応した、感染防止対策と社会経済活動を両立する社会を構築する。

1 市民の健康増進

岡山の保健医療の目指すべき2030年の将来像等を示した「Positive Health Okayama」の新たな健康の概念や一体的ケアなどが普及し、行政や保健医療関係者をはじめ、地域や企業などが一体となり、市民の健康な生活を支え、健康寿命の延伸を実現している。

2 健康、そして誰もが活躍できる社会へ

- ・ 起業家やベンチャー企業が活動しやすい環境を整え、創業や安定した事業継続につながる。
- ・ ヘルスケア関連分野を中心に、付加価値の高い産業が創出・育成される。
- ・ 企業誘致の促進により、新たな雇用が創出される。
- ・ 移住・定住に係る取組を進めることで、若者の就職等による東京圏、大阪圏への転出に歯止めがかかり、岡山市への若者の定着と新たな人の流入が実現される。
- ・ 高齢者等に対する就労に向けた支援が行き渡り、生涯を通して活躍できる機会を得ることができる。
- ・ 農業の担い手不足や高齢化に対し、新規就農者増加などの取組が進み、農業を持続できる環境づくりが整備されている。
- ・ 地域活動の担い手として活躍する市民が増加し、誰もが生きがいを持って生涯現役で活躍できるまちが実現している。
- ・ 働く女性の活躍支援や離職した女性の就労支援が進むことにより、ライフステージのあらゆる場面で個性や能力が発揮できる。
- ・ 男性が女性と同等の家事・育児・介護を分担し、労働生産性を高め長時間労働が是正されたワーク・ライフ・バランスが実現されている。

3 誰もが「住みやすさ」を実感できるまち

【低炭素化された循環型社会の実現】

- ・ 太陽光発電等の再生可能エネルギーの普及や省エネルギーの取組等により、温室

効果ガスの排出が削減された低炭素型のまちが実現している。

- ・ 市民や事業者が地球温暖化問題について理解を深め、省エネ・低炭素な製品やサービス、ライフスタイルを賢く選択することや、温暖化の影響を回避・軽減する「適応策」に取り組むなど、地球にも人にもやさしい持続可能な社会が実現している。
- ・ 廃棄物の減量化、資源化の取組が進み、安全かつ健全で快適な生活環境と環境負荷が低減された循環型社会が実現している。

【人と環境にやさしい交通ネットワークの構築】



- ・ 過度に自動車に依存する都市構造から脱却し、鉄道や路面電車、バス等の公共交通を中心に、徒歩や自転車等を組み合わせた、利便性の高い交通ネットワークが構築されている。
- ・ 移動手段を持たない高齢者をはじめとする交通弱者に対し、買い物や通院等、日常生活に必要な交通手段が確保されている。

【市民協働による快適な環境づくり】

- ・ 市民や事業者、行政が協働で環境保全活動に取り組み、多様な生物の生息・生育地である自然環境が保全され、自然と親しむことのできる場や機会が創出されるなど、自然環境との共生が促進されている。
- ・ 各地域にESD活動が根付き、岡山ESDプロジェクトを通じて育った人材が地域課題の解決に取り組み、快適なまちや住環境が実現している。


(3) 2030年のあるべき姿の実現に向けた優先的なゴール、ターゲット

(経済)


ゴール、 ターゲット番号	KPI	
 8, 3	指標: 市の創業支援による創業者数	
	2018年: 22者	2025年: 50者
 9, b		

新たな雇用と成長を促す産業振興を推進するため、企業誘致の促進及び地域資源を活かした戦略的な産業の創出・育成を図るとともに、起業家等が活動しやすい環境を整え、創業や安定した事業継続を促す。また、岡山市への人の流れをつくるため、移住・定住支援施策を推進するとともに、若者の岡山への定着を促進する。

(社会)

ゴール、 ターゲット番号	KPI	
 3, 4 3, 8	指標: 健康寿命	
	2016年: 男性 71.7歳 女性 74.4歳	2025年: 男性 73.0歳 女性 77.0歳



運動習慣の定着化や食生活改善など、健康活動の習慣化を総合的に進め、社会全体で健康づくりを支援するとともに、市民一人ひとりが健康づくりに主体的に取り組める環境整備を進めることにより、健康寿命の延伸を図る。

ゴール、 ターゲット番号	KPI	
 8, 5	指標: 生涯かつやく支援センターが就労に結び付けた人数	
	2019年: 26人	2025年: 750人(累計)


多様な人材が活躍できるまちづくりを目指し、高齢になっても生涯現役で活躍し続けられ

るよう、就労や社会参加に向けた支援を行うとともに、働く女性のためのキャリアアップ支援や離職した女性の就労を支援するなど、高齢者や女性の活躍を推進する。また、企業に対しても、働き方改革や職場の意識改革を促進する。



(環境)

ゴール、 ターゲット番号	KPI	
 7, 2 7, 3	指標: 温室効果ガス排出量	
	2017年: 6,119 千t-CO2	2030年: 3,497 千t-CO2
 13, 1 13, 3		

低炭素型の環境にやさしいまちづくりを推進するため、持続可能なエネルギーの推進、温室効果ガスの排出削減、気候変動対策等に取り組む。また、市民や事業者と一体となって廃棄物の減量化・資源化を継続して推進し、循環型社会を構築する。

ゴール、 ターゲット番号	KPI	
 11, 2 11, a	指標: 市民 1 人あたりの公共交通利用回数 (鉄道+路面電車+主要バス路線)	
	2016年: 80 回/年・人	2027年: 100 回/年・人

バス、路面電車、鉄道などの公共交通中心の利便性の高い交通ネットワークを構築するとともに、地域における生活交通の確保や自転車先進都市の取組推進を図り、人と環境にやさしいまちづくりの実現を図る。

ゴール、 ターゲット番号	KPI	
 4, 7	指標: 岡山ESDプロジェクト参加団体数	
	2020年: 317 団体	2030年: 430 団体
 17, 17		

多様な組織で構成される岡山ESDプロジェクト参加団体との連携を拡大し、SDGsの達成に向けたESDに取り組むことにより、活動団体へのSDGsの理解促進や活動支援を図り、環境保全活動等を自主的・積極的に取り組む組織や団体の更なる充実を図る。



2 自治体SDGsの推進に資する取組

(1)自治体SDGsの推進に資する取組

前期のSDGs未来都市計画に記載したSDGs健康好循環プロジェクトを継続して実施することにより、経済・社会・環境の三側面の課題に対して、統合的解決に取り組む。経済面では、人口流出に歯止めをかけ、若い世代の岡山への定着を図るため、新たな雇用と活力を生み出す戦略的な産業振興に取り組む。また、社会的に注目が集まる環境問題の解決に向けた取組を積極的に実施し、低炭素型で環境負荷が低減された循環型社会の構築を図る。

2021-2023年に向けた戦略としては、健康になった市民が社会で活躍できる環境を整備し、経済・社会・環境の面で「住みやすさ」を実感できる持続可能なまちの実現を目指す。

① 産業の創出・育成・強化

ゴール、 ターゲット番号	KPI
 8, 3	指標：市の創業支援による創業者数
 9, b	2018年： 22者
	2025年： 50者

【創業支援事業】

創業に必要な実務知識を習得するための創業スクールや創業セミナーの開催や初期経費への補助を行うほか、新たな経済の担い手を創出するため、創業・起業に関心を持つ多様な人々が交流できる拠点「ももたろう・スタートアップカフェ」を金融機関や経済団体等と運営委員会を組織して運営し、スタートアップを促進するなど、起業家やベンチャー企業が創業しやすい環境づくりを進める。



【新産業創出・育成事業】

豊富な医療・介護資源等の強みや特性をいかし、産学官金の幅広い交流・連携を通じて、市民の健康な生活をサポートする付加価値の高いヘルスケア関連産業等、新産業の創出・育成を図る。

【企業誘致促進事業】

市内外の人材の移住・定住につながる魅力ある雇用の創出を図るため、幅広い業種の企業の立地を推進する。

② 移住・定住の促進

ゴール、 ターゲット番号	KPI	
 8, 8	指標: 移住定住支援により移住した人数	
	2019年: 30人	2025年: 90人
 11, 3		

【移住定住促進事業】

- ・移住支援専用ウェブサイトの充実などにより、移住先としての岡山市の魅力や特色を発信し、移住希望者のニーズに沿った情報を提供する。
- ・民間の移住者支援団体等で構成する「岡山市移住・定住支援協議会」と連携し、移住への支援体制を充実させるとともに、移住相談会やセミナー等を開催し、移住・定住を促進する。

【雇用対策等事業】

新規学卒者やU I Jターン希望者等へ、企業情報の発信支援や企業説明会を開催するとともに、新しい生活様式に対応する新入社員採用活動を支援する。


③ 活力ある農業の振興

ゴール、 ターゲット番号	KPI	
 8, 3	指標: 新規就農者数	
	2019年: 34人	2025年: 50人

【農業の担い手の確保・育成事業】

岡山市就農サポートセンターの活用を推進するほか、就農相談会等による新規就農相談、就農への不安解消等を目的とした短期体験、関係機関と連携した実践的な農業技術や経営知識習得のための研修実施など、就農希望者の状況に応じて支援することで新規就農者の増加を図る。

④ 健康寿命の延伸に向けた健康づくり

ゴール、 ターゲット番号	KPI	
 3, 4 3, 8	指標: 市と連携して市民の健康づくりに取り組む企業等の数	
	2020 年: 111 社	2023 年: 120 社
	指標: 自らの健康リスクを把握している人の割合(国保特定健診受診率)	
	2018 年: 30.5%	2023 年: 39.0%


【健康ポイント事業】

成果連動型民間委託等の手法を活用し、市民等に運動や食生活などの健康的なサービスを企業等と連携して提供し、生活習慣病予防の取組や健康が身近にある環境整備を推進する。

【AIを活用した健康見える化事業】

健診結果等から A I が算出した将来の健康リスクを可視化し、一人ひとりに適した生活習慣改善メニューを提供することで、生活習慣病予防への取組を支援する。



⑤ 生涯現役社会づくり

ゴール、 ターゲット番号	KPI	
 8, 5	指標: 生涯かつやく支援センターが就労に結び付けた人数	
	2019 年: 26 人	2025 年: 750 人(累計)

【生涯活躍就労支援事業】

高齢者等のニーズに合った就労や社会参加のマッチング支援と、企業等の高齢者雇用に対する理解を促進し、生涯生きがいを持って活躍できる社会の実現を図る。



⑥ 女性の活躍・男女共同参画の推進

ゴール、 ターゲット番号	KPI	
 5, 1	指標: 市内企業における管理職(課長相当職以上)に占める女性の割合	
 8, 5	2018年: 7.7%	2024年: 14.0%

【女性が輝くまちづくり推進事業】

- ・企業の経営者や男性管理職等を対象にした女性活躍及びワーク・ライフ・バランス推進に向けた講演会やセミナーを開催するとともに、離職した女性のスキルアップや再就職支援、女性社員のキャリア形成の支援を行う。
- ・女性活躍及び仕事と家庭の両立支援に積極的に取り組んでいる企業の表彰・認証を行う。




⑦ 再生可能エネルギーの活用と温室効果ガスの排出削減

ゴール、 ターゲット番号	KPI	
 7, 2 7, 3	指標: 温室効果ガス排出量	
 13, 1 13, 3	2017年: 6,119 千t-CO ₂	2023年: 5,141 千t-CO ₂

【地球温暖化対策事業】

- ・低炭素社会の実現に向け、市内の住宅・事業所への、創エネ・省エネ・蓄エネ機器の導入に対する補助を行うスマートエネルギー導入促進事業を実施する。
- ・気候変動の影響を回避・軽減する適応策に、市民・事業者と協働して取り組む。
- ・プラスチックごみの焼却により生じる温室効果ガスを抑制するため、プラスチックごみのリサイクルを促進する。

⑧ ごみの減量化とリサイクルの推進

ゴール、 ターゲット番号	KPI	
 11, 6	指標: ごみの資源化率	
	2019年: 27.4%	2025年: 31.1%
 12, 3 12, 5	指標: 市民1人1日当たりのごみ排出量	
	2019年: 842g	2025年: 754g
 14, 1		

【資源循環指導・啓発事業】

市民や事業者の4Rに対する意識・行動改革を促す情報提供や、分別アプリ・講座等による普及啓発を実施する。


【減量化・資源化対策事業】

資源回収活動を行う団体への支援や生ごみ削減活動の促進、資源化物の拠点回収を実施する。

【SDGs 守ろう！海・川プロジェクト】

海ごみ・プラスチックごみの削減に向け、岡山連携中枢都市圏の圏域自治体と連携し、市民や企業が参加する海・川ごみ回収のイベントを実施する。あわせて海ごみ問題に対する意識向上を図るため、フォーラムやパネル展を開催し、啓発活動を行う。



⑨ 生物多様性の保全と環境との共生

ゴール、 ターゲット番号	KPI	
 15, 5	指標: 身近な生きものの里認定地区数	
	2019年: 17地区	2025年: 25地区

【自然保護事業・身近な生きものの里事業】

身近な場所で多様な自然風景や野生生物に触れ合える環境を保全し、次世代に引き継いでいくため、科学的な知見と多様な主体の参画により策定した「岡山市生物多様性地域戦略」に基づき、地域住民、企業、NPO等と連携・協働し、身近な生きものや希少野生生物の保護等を戦略的に推進する。


⑩ 人と環境にやさしい交通ネットワークの構築

ゴール、 ターゲット番号	KPI	
 7, 1  11, 2	指標：バス路線の主要渋滞箇所数	
	2019年： 38箇所	2028年： 33箇所

【低炭素型の交通ネットワーク構築】

車優先から人優先のまちづくりを進める中で、低炭素型の交通体系を目指し、県庁通りの歩道拡幅等の歩いて楽しい道路空間の整備をはじめ、岡山駅への路面電車の乗り入れ、複雑なバス路線網の見える化やバス車両及び停留所のバリアフリー化等のバスの利用環境の向上、自転車走行空間の整備やコミュニティサイクル「ももちゃり」の利用促進等の自転車先進都市おかやま事業等に取り組み、環境にやさしい交通ネットワークの構築を図る。

⑪ ESD地域拠点におけるESD活動の広がり

ゴール、 ターゲット番号	KPI	
 4, 7	指標：岡山ESDプロジェクトにおける地域拠点でのワークショップ開催件数	
	2019年： 20件	2025年： 150件(累計)

公民館やユネスコスクールなどのESD地域拠点において、岡山ESDプロジェクトの取組で育成されたコーディネーターの活躍等により、持続可能な社会づくりに向けた地域課題の解決や将来ビジョンを話し合うワークショップ等の学びの機会を創出し、ESD活動を広げることで、SDGsの達成につながる市民の意識や行動の変容を図っていく。

(2)情報発信

(域内向け)

岡山市では、2005年に岡山ESD推進協議会を設立して以来、これまで継続してESD活動を推進しており、様々なステークホルダーと連携して情報発信を行うなど、ESDの普及拡大に努めてきた。SDGsの情報発信や普及啓発についても、これまでのESDの取組の成果を活かし、岡山地域の市民や活動団体に対して、積極的に以下の取組を行う。

○ 未来わくわくSDGsフェスタ

市民に対するSDGsの理解を深めていくための普及啓発イベントを、多くの市民が集う大型商業施設等において、関連組織等と連携して実施する。「持続可能な社会をつくるためにできること」をテーマに、日々の暮らしとSDGsの関わりについての新たな気づきと実践活動に繋げていくとともに、市民団体や学校等のSDGs達成につながる活動を発信する。

内容：SDGs達成につながる取組発表や持続可能な社会づくりを学ぶステージイベント・ワークショップ、SDGsパネル展、など。

○ SDGsフォーラム in 岡山

持続可能な社会づくりに向けたSDGsの目標達成への取組を学び合い、各ステークホルダーによる今後のアクションにつながるアイデアを共有するとともに、更なる連携・協働を促進することを目的に、フォーラムを開催する。2021年度からは海ごみ削減を主なテーマとして開催を計画する。

○ ESDカフェ×SDGsシリーズ

各地域で持続可能な社会づくりに取り組む様々な分野の方々を講師に迎えて、各種テーマに基づいた活動の発表や参加者との意見交換などの交流を行う。活動内容をSDGsの目標に関連付けながら、市民が気軽に参加できる、ESDやSDGsの学びの機会として、2011年からほぼ毎月のペースで開催している。(オンライン開催を含む)

○ ホームページ「おかやまESDなび」での情報発信

岡山地域におけるESD活動の情報発信と理解促進に活躍している団体等を紹介するホームページ「おかやまESDなび」を活用し、SDGsの情報発信を図っていく。

内容：SDGs17の各分野に沿った活動団体の紹介、各ステークホルダーの活動がわかるイベントカレンダー、岡山市や岡山ESD推進協議会のSDGs取組の紹介など

(域外向け(国内))

- 岡山市が加盟するイクレイ(持続可能性を目指す自治体協議会)及び全国生涯学習市町村協議会の一員として、関連会議や情報交換ツールを活用し、SDGsに係る全国の優れた事例の学び合いや、岡山地域の取組の情報発信を図る。
- 岡山市と県内周辺市町の8市5町で連携協定を結び、地方創生につなげる「岡山連携中枢都市圏事業」において、連携施策のひとつとして、「ESDによる人づくりとネットワークの推進」を規定している。これを活用して、周辺自治体に対し、SDGsの理解促進と活動の情報発信を行う。

(海外向け)

- 「ESDの地域拠点」(RCE)、ユネスコ学習都市及びイクレイのネットワークを活かし、関連国際会議や加盟都市間の交流、それぞれのネットワークが構築している情報発信ツール等を通じて、積極的にSDGsに係る世界の優れた事例を学ぶとともに、地域内の優れた事例の情報発信を図る。
- 2019年にユネスコ総会及び国連総会で採択された、「持続可能な開発のための教育:SDGs達成に向けて(ESD for 2030)」を受け、ユネスコが中心となりSDGs達成に向けたESDが推進される。岡山市はESDを推進するユネスコネットワークの一員として、関連する国際会議や情報交流ツール等を活用して、積極的にSDGsに係る世界の優れた事例を学ぶとともに、岡山地域内の優れた事例の情報発信を図る。

(3)普及展開性

(他の地域への普及展開性)

- 岡山市では、持続可能な社会づくりを教育の視点から取り組むESD活動を2005年から継続して取り組んでおり、2015年には岡山ESDプロジェクトにSDGsを組み込むなど、早くから地域と連携してSDGs達成に向けて取り組んできた。こうしたESD活動をベースとしたSDGsの推進に関心のある自治体や県外の大学、団体等に対し、視察来訪時の説明などで普及展開を図る。
- 全国ESD・SDGs自治体会議やESD活動支援センター、ユネスコスクール高校ネットワーク等、これまでのESD活動により構築してきたネットワークを活用し、全国会議やイベント等に参加して取組を発表することで普及展開を図る。
- 新型コロナウイルス感染症の影響により、オンライン会議の場が増えており、特に国際会議への参加が容易となっている。こうした機会を活かし、オンラインを活用して岡山のESDやSDGsの取組の情報発信を行うことで普及展開を図る。

3 推進体制

(1) 各種計画への反映

1. 岡山市第六次総合計画

岡山市の都市づくりを総合的・計画的に進めていくための指針である第六次総合計画後期中期計画(2021年度～2025年度)において、総合計画とSDGsの関係性を示すとともに、施策分野等にもSDGsを反映させた改定を行う方向で検討している。(2021年6月改定予定)

2. 第2期岡山市まち・ひと・しごと創生総合戦略

岡山市の地方創生の実現を図るための総合戦略(2021年度～2025年度)において、総合戦略とSDGsの関係性を示すとともに、施策分野等にもSDGsを反映させた改定を行う方向で検討している。(2021年3月改定予定)

3. 第2次岡山市環境基本計画

2025年度を目標年次とし、岡山市の環境施策を総合的・計画的に推進するもので、SDGsの要素を踏まえた施策展開をしている。2020年度に改定し、環境施策ごとのSDGsマッピングを行うなど、よりSDGsの要素を取り入れた内容で作成し、取組を推進している。

4. 岡山市消費者教育推進計画

岡山市における消費者教育を体系的に推進していくために策定された消費者教育推進計画の中で、SDGsをエシカル消費と関連づけて明記し、取組を推進している。

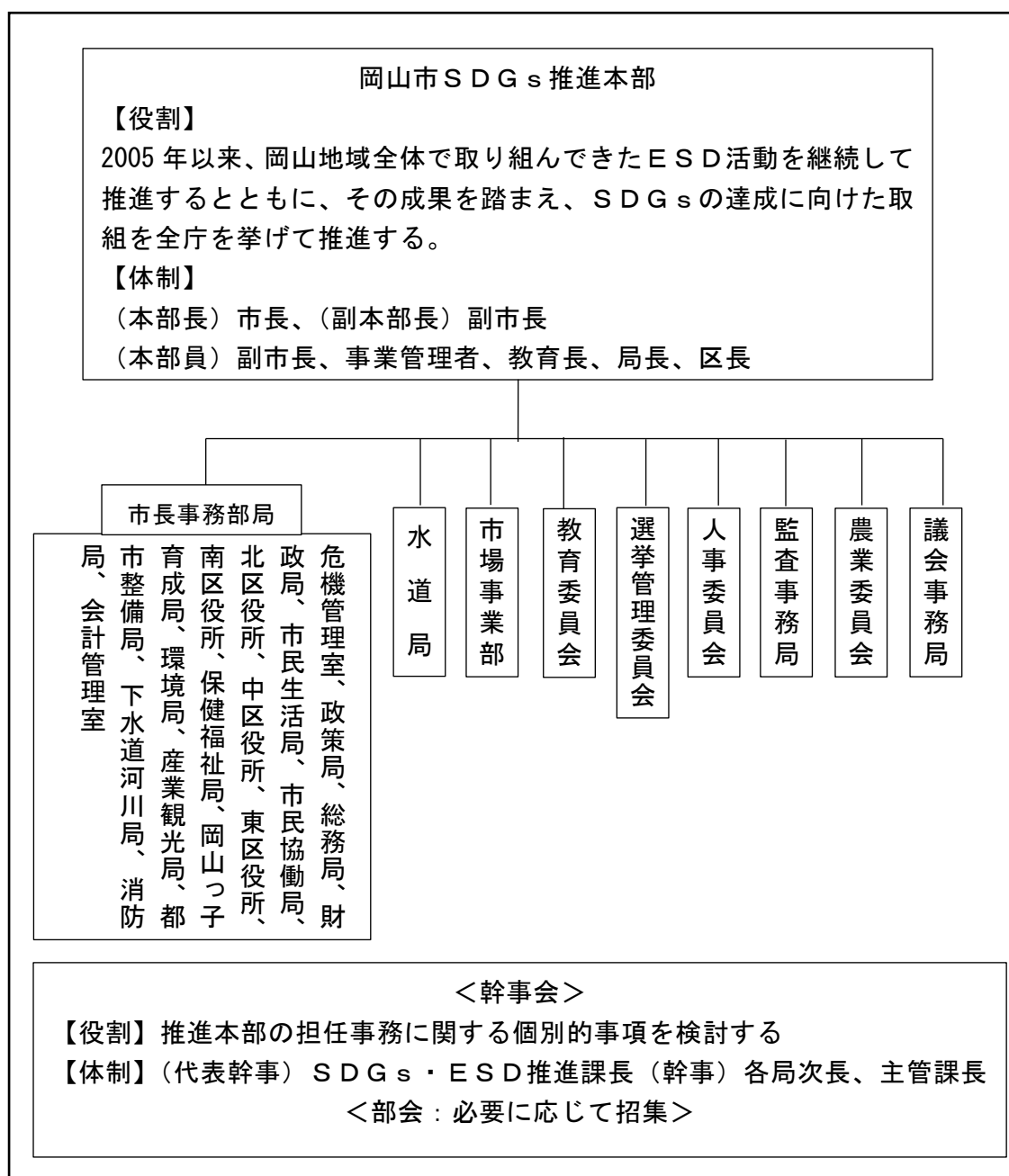
5. 岡山市立公民館基本方針

公民館における教育活動や地域づくり等の活動に関わる市民や多様な主体と協働して公民館活動を推進するために2019年3月に策定されたものであり、岡山市の公民館が目指すべき概ね10年後(2030年)の姿とそのための課題や取組を示したもので、目指す公民館の姿の中にSDGsとESDを位置づけ、持続可能な地域社会づくりに貢献する公民館を目指すこととしている。

(2) 行政体内部の執行体制

岡山市のSDGs達成に向けて、市全体で取り組むための全庁的な体制を構築するため、市長をトップとしたSDGs推進本部を設置した。(2018年7月設置)

推進本部では、主にSDGsやESDに係る情報共有や事業報告に関するものの他、今後の課題や取組計画等について検討、協議する。また、SDGs未来都市計画における各種事業などの個別的事項を検討するため、推進本部に幹事会を置き、必要に応じて会議を開催する。その中で、専門的な事項や特に重要な事項について調査検討する場合は、必要に応じて関係職員で構成する部会を置く。



(3) ステークホルダーとの連携

1. 域内外の主体

① 岡山ESD推進協議会

岡山ESD推進協議会(事務局：岡山市)は、地域の各ステークホルダーが連携してESDに取り組むことにより、地域全体の持続可能な社会づくりに関する理解を深め、主体的な実践活動を進めていくために設けられたネットワーク組織で、市民団体、経済団体、教育機関、大学、企業、NPO、自治体等の多様な組織が参画している。(2020年12月末現在319団体)

同協議会は、SDGs達成に向けた地域全体のESD推進の方向性を規定した岡山ESDプロジェクト基本構想に基づき、人材育成や活動助成、啓発活動等を通じて、各ステークホルダーの活動を支援するとともに、持続可能な社会づくりの取組の広がりや質の向上を図っている。

今後、岡山市は同協議会及び構成各組織・団体との連携を更に強化し、ESDを活用したSDGs達成につながる様々な事業を実施することで、市域全体で「草の根レベル」からSDGsを推進していく。

② 岡山大学

岡山大学は、これまでESDに取り組んできた実績をふまえて、SDGs達成の観点を取り入れた大学運営を全学的に推進しており、2017年には国が実施した「第1回ジャパンSDGsアワード」の特別賞を受賞するなど、積極的にSDGsを推進している。

岡山大学が有する専門知識や学生も含めた人材等を活かして、SDGs達成に向けた教育をテーマとした国際会議を連携して開催するなど、大学の専門性を有効活用したSDGsの取組を推進していく。

③ 岡山経済同友会

2017年にSDGsの要素を盛り込んだ「30年後の同胞へのメッセージ」を作成するなど、早くから企業がSDGsに取り組む重要性を理解し、研修会や視察を行うなど、岡山県内の企業をリードする取組を行っている。

④ おかやま円卓会議・おかやま地域発展協議体・おかやまSDGs研究会

2016年に岡山地域の課題解決の方向性や具体的アクションを協議する場として、産官学民が連携した「おかやま円卓会議・おかやま地域発展協議体」が発足し、その後、岡山市をはじめとする県内のSDGs未来都市や大学、経済団体、企業等で構成する「おかやまSDGs研究会」が2018年に立ち上がった。

このSDGs達成に取り組む産官学民の連携組織により、岡山県内のSDGs達成に向けた優良事例を顕彰する、「おかやまSDGsアワード」を2020年度から開始することとなった。岡山県内という広範囲な連携組織のメリットを活かし、各地域の取組の見える化とSDGs活動の底上げを図り、地域の活性化につなげていく。

2. 国内の自治体

① RCE（ESD地域活動拠点）認定地域内の各構成国内自治体

RCEとはESDを推進するための地域拠点として国連大学が認定したもので、日本国内には、岡山市を含め北九州市や横浜市、大牟田市など8地域がRCEに認定されている。認定地域間の情報共有や優良事例の学び合いと、これに基づく各地域内の実践等を目的としており、これまでのRCE構成自治体のつながりを踏まえ、SDGsの取組について連携した「学び合い」を図っていく。

② 岡山連携中枢都市圏の構成各自治体（8市5町）

岡山連携中枢都市圏については、近隣市町が連携し、共通する課題の解決に向けた連携施策について検討するために設置されている。この圏域における人口は117万人、面積は3,764k㎡と、岡山県人口の6割、岡山県面積の5割を占めており、この連携組織の取組項目の一つにSDGsを含めることで、効率的にSDGsの県内での普及展開を図る。また、海ごみ・プラスチックごみ削減をテーマに各市町と連携して取り組むことで、圏域全体で社会問題の解決を図っていく。

③ イクレイ（持続可能性を目指す自治体協議会）の各構成国内自治体

本組織は、国内外の持続可能な地域づくりを推進していくことを目指し、現在21自治体が加盟していることから、SDGsの取組についても連携した「学び合い」を図っていく。

④ 全国生涯学習市町村協議会構成各自治体

本組織は、地域をあげた学び合いにより、よりよいまちづくりの推進を目指しており、現在、岡山市を含め71自治体が加盟している。今後も「持続可能な都市」実現のために、SDGsの取組についての連携した「学び合い」を図っていく。

3. 海外の主体

① RCE（ESD地域活動拠点）ネットワーク

本ネットワークは、現在、世界全体で174地域がRCEに認定されており、認定地域間の情報共有や優良事例の学び合いと、これに基づく各地域内の実践等を目的に、SDGs達成に向けたESDを推進している。特に、アジア太平洋RCEネットワークでは、リモート会議や国際会議を定期的を開催するなど、活発な連携が図られており、これまでのRCE同士のつながりを活かし、SDGsの取組について連携した「学び合い」を図っていく。

② イクレイ（持続可能性を目指す自治体協議会）ネットワーク

本組織は、1,700を超える国内外の自治体が連携して、各地域の取組を積み重

ね、持続可能な社会を実現していくことを目指しており、環境問題の解決をはじめ、SDGsの達成につながる活動を行っていることから、SDGsの取組について連携した「学び合い」を図っていく。

③ ユネスコ学習都市に関するグローバルネットワーク

本組織は、全ての市民が学校教育や社会教育を通じて生涯にわたり学び、その能力や知識を社会づくりに活かしていくことにより、持続可能な学習都市の実現を目指している。活動指標の中に、各都市の持続可能性に係る事項が多く含まれており、ユネスコ学習都市賞を受賞した岡山市としては、積極的に本ネットワークに参加し、SDGsの取組について連携した「学び合い」を図っていく。

④ 各種国際会議の開催

岡山大学と協働で開催した「SDGsの達成に向けたRCE第1回世界会議」（2017年開催）や「ESD教師教育世界大会」（2019年開催）をはじめ、これまでの海外とのESD交流を活かして、各種分野でSDGsに関連する国際会議を開催し、国際社会と連携した「学び合い」を図っていく。

(4) 自律的好循環の形成

(自律的好循環の形成へ向けた制度の構築等)

岡山地域で2020年度から開始した産官学連携の取組である「おかやまSDGsアワード」では、多くの事業者から地域課題等の解決に向けた取組の応募があり、SDGsへの関心の高さが浮き彫りとなった。今後もこうしたSDGsの達成につながる岡山地域の取組を「見える化」する仕組みづくりが必要になっている。

地方創生SDGsの推進においては、地域課題等の解決に向けた取組によって得られた収益が地域に還流・再投資される「自律的好循環」の形成が重要である。

そこで、SDGsに積極的に取り組む地域事業者等の活動を「見える化」とともに、岡山地域の金融機関や様々なステークホルダーと連携して事業者等の取組を支援することで、更なるSDGsの推進及び自律的好循環の形成につなげることを検討していく。

また、SDGsへの取組を通じた官民連携のパートナーシップをさらに強化し、SDGsに積極的に取り組む地域事業者等の登録・認証等に係る制度の構築も視野に入れながら、地方創生SDGsの拡大と、地域課題等の解決に向けた取組の促進を図っていく。

(将来的な自走に向けた取組)

市民の健康づくりと社会活躍を目指す健康好循環プロジェクトを実施するにあたり、健康ポイント事業及び生涯活躍就労支援事業について、SIBの手法を用いて事業を実施した。今後も民間資金の活用など、自走可能な手法を取り入れていく。

(SIBとは、民間資金を活用して革新的な社会課題解決型の事業を実施し、その事業成果により自治体等が報酬を支払うシステム)

4 地方創生・地域活性化への貢献

岡山市がSDGs未来都市の取組としてテーマに掲げた「誰もが健康で学び合い、生涯活躍するまち」の実現を目指し、市民の健康づくりの習慣化や健康寿命の延伸等を目指したSDGs健康好循環プロジェクトを引き続き実施する。これにより、多くの市民の健康づくりへの参加が促進され、生活習慣病予防や市民の医療費の抑制が図られる。また、生涯活躍就労支援事業により、活動意欲のある高齢者が社会参加できる環境が整備され、企業等の人材不足が解消される。

健康になった市民が活躍するための経済活性化も重要であり、新型コロナウイルス感染症の影響など、地域経済の縮小が懸念される中、産業の創出・育成・強化の取組として、創業支援事業や新産業創出・育成事業等を実施し、新たな雇用と経済活力を生み出していく。また、女性が輝くまちづくり推進事業の実施により、社会での女性活躍が促進され、働きやすい環境整備と多様性に富んだ活力ある地域社会を実現していく。

社会問題となっている人口減少や少子高齢化への対応も急務となっており、若者の岡山への定着や移住定住を促進する取組により、岡山への新たな人の流れが創出されるとともに、高齢化に伴う農業や地域活動の担い手不足に対しても、新規就農者の確保や健康を保持する高齢者が生きがいを持って活躍する場の創出に取り組む。また、SDGs達成に向け、農村や里山の果たす役割も重要であり、農村部など周辺地域の維持等に取り組む、地域活性化に繋げていく。

一方、健康になった市民が充実した市民生活を送りながら、将来にわたって住み続けたいと思える「住みやすさ」を実感できる環境整備も必要である。

市民生活に密接する、人と環境にやさしい低炭素型の交通ネットワークの構築は、温室効果ガスの排出が削減され、地球環境問題の解決に貢献するだけでなく、まちの賑わい創出にもつながり、地域活性化が図られる。

また、社会全体の課題である、低炭素型で循環型社会の構築については、再生可能エネルギーの活用促進やごみ減量化とリサイクル推進などに積極的に取り組むことで、安全かつ健全で快適な生活環境の構築を図り、「住みやすさ」に磨きのかかった、持続的に発展できるまちを実現する。

2019年の国連総会で採択された「ESD for 2030」の枠組みにおいて、SDGsの17全ての目標実現に向けた教育の役割が強調され、ESDが全ての持続可能な開発目標の成功への鍵であることが確認された。

岡山市は2005年から継続してESDに取り組んでおり、多様なステークホルダーによる持続可能な社会づくりの取組が浸透している。また、2021年に策定する「岡

山ESDプロジェクト新基本構想」において、ESDの視点を取り入れたSDGs達成に繋がる取組を数多く計画しており、今後、地域と連携して実践していく予定である。

こうしたESDによる学びと実践、人材の育成を通じ、ESD先進都市として、これまでの地域コミュニティにおけるESD活動の成果を活かしながら、SDGs達成に向けた経済・社会・環境の活動を活性化して、持続可能な社会の構築を図っていく。

岡山県岡山市SDGs未来都市計画（2021～2023）

令和3年 3月 策定

令和4年10月 改定

令和5年 9月 改定